

文意の指導による読みの変容

新潟市立山ノ下中学校教諭 高杉 正雄

I はじめに

生徒の「童謡」(吉行淳之介)の一読後の感想には次のようなものが多い。

1. 日常的・道徳的批評

- 骨格だけになった少年を思うと気持ちが悪い。 ○こんな病気になりたくない。
- 体重が簡単に増減して不思議である。 ○少年はもっと勇気を持つべきだ。

2. 関係事実に対する疑問

- なんのために「童謡」を歌ったのか。 ○友人の存在がはっきりしない。
- なぜ少女が見舞いに来たのか。 ○簡単に太りすぎる。土蔵に住む気持ちもわからない。

3. 全体的感想

- 現実をそのまま書いてあっておもしろくない。 ○やせたところの描写がおもしろい。
- 現実とかけ離れたところがあって印象に残らない。 ○太ったりやせたりがおもしろい。

この作品に対する生徒の一般的傾向は、部分から日常的・経験的に反応する者、内容的に読んで矛盾を感じる者が多く、したがって作品に対する一読後の感想はきわめて否定的・拒否的である。そこで、この作品の理解に対する一つの指導を試み、その結果を考察し、今後の参考に資したい。

II 研究の内容と調査の方法

1. 研究の観点

作品の形象性・芸術性を理解させるには、そこにはたらく想像的な意識を問題にしなければならない。文学は美と真実にかかわる芸術であると言われる。内容をよく読み、作品から単なる知識・理解を得ても文学作品の読解の契機となるとは考えられない。知識の問題でなく想像する意識の問題であるからである。その観点から、その意識を方向づけるため 次の方法による指導を実施した。

- (1) 読みの性格・態度をきめる。 (部分をとおして)
- (2) 文意について考える。 (概念的判断による)

2. 授業と調査の方法

- (1) 教材 「童謡」(吉行淳之介) 三省堂「現代国語3」

(2) 指導過程の概略

- 一次 黙読して、一次感想をまとめる。(一時間)
- 二次 読みの性格・態度をきめる。(一時間)
- 三次 文意について考える。(一時間)
- 四次 文意にしたがって読む。(二時間)

(3) 調査

- 一、二、三次の指導後の読み。

- 調査はすべて自由記述法。

調査内容 ・主題理解 ・作品全体に対する感想，末尾に興味「おもしろい」「きらい」「わからない」を記入。

- 二次，三次には部分の感想も求め，全体の読みとの関係をみる。

- 能力別に区分。上，中，下位，各15名。知能，標準学力テスト，最近の校内テストによる。

- 自由記述法による調査のため，読みの態度を類別した。

3. 読みの類別

この作品の感想を一次から三次までの結果についてみると，次の三つに類別できる。

- (1) 第1のタイプはこの主人公の少年をととてもみじめなものと感じ，やせた姿を気持ち悪く感ずる。また太り始めることに對しても，あり得ないとし，作品に興味を示さない。

また部分に對し 日常的な体験に直接に結びつけて批判したりすることが多い。知覚的・部分的・主観的態度である。

例

- やせたり太ったりしてへんな病気だ。○表現が大げさである。
- あいまいなところが多い。○少年はもっと勇気を持つべきだ。

- (2) 第2のタイプは，全体的な読みにより，主題や心理の変化を一応読みとっているが，単に表面的・概念的に止まっている者。しかし，第1のタイプのように部分に對して表面的・主観的に応ずる。そのために混乱や矛盾を感じ，「わからない」「きらい」という場合が多い。知的・表面的態度。

例

- 内容も表現も普通である。○現実味がなく筋に重味がない。
- 心理の変化が面白い。題がよくない。○部分的にはおもしろい

- (3) 第3のタイプは，内容的にもよく読むと同時に，総合的な意味体制の上からいきいきと部をとらえ，積極的に細部が読まれる。「おもしろい」という場合が多い。美的・総合的・想像的態度。

- 例
- 大人に読ませる童話。
 - 比喩的表現がおもしろい。
 - 対話の裏にある心情を読みとるのが楽しい。
 - 少年が純粹で美しい。

Ⅲ 研究の実際

1. 二次の指導と調査

(1) 読み方の性格や態度をきめる。

部分を取りあげて関係理解や文体について話し合う。文意の理解をもたらす表象が重要である。表象はある判断と感じ方を伴う。あるいは、ある判断のし方と感じ方によって、構成され得よう。

文意を疎外している部分的、受動的な感じ方に代って、総合的意味をもたらす感じ方を必要とする。部分をとおして、関係把握、文体の特色に触れ、感じ方や判断の契機としたい。なお部分について考えることは全体に対する概念化をさける気持ちからである。

「きめる」ということは決定することではなく、生徒自身が方向性を持つことの意味である。

(2) 引用した文は後半の中ほどで、物語の展開の上で重要な一つの転機になっているところである。

(3) おもな設問及び設問の観点

a 関係的事実の理解の設問

- 太り始めたのはどうしてか。○土蔵に住んだことについて。
- 10日でもとの体重に、20日でもとの2倍に太ったことについて。

理由はあっても決定的なものでないこと。

b 描写文体の特色について

- リアルな部分、空想的な部分の混交。
- センテンスの長さ、同じ言葉の繰り返しによるリズム、響き合いなどについて気づかせる。

(4) 調査 ○前述の方法。

- 部分の読みの調査を加える。

2. 三次の指導と調査

(1) 文意を話し合う

全文に対する概念的な判断が読みの意識をどのように変えるか。

(2) 生徒が考えた文意の一部。(二次の調査に表われたもの)

- 病気の体験をとおして異質な人間になってゆくことや人間の心の変化の微妙さ。

○異状な状態でなければ経験出来ないようなことをとおして、性格や物の見方・考え方が変わったこと。

○幼稚な感じの中にすごくおとなっぽいものを感じる。童謡の感じもよくこの文章に生きている。○病気のため肉体や精神が衰弱して繊細になり、健康体の人間では考えられない深刻な経験を積むものだという事。

(3) 文意をまとめる。

少年が病気の体験をとおして肉体上の変化や心の成長を描いたものである。「童謡」が象徴する味わい、微妙な美しさ、軽快さが感じられる。

(4) 調査 文意の話し合い後の読みの調査。○部分の読みの調査。

Ⅳ 調査の結果

一次から三次までの読みの調査の結果は次の表のとおりである。

(一次)

読みの類型	能力区分				おもしろい				きらい				わからない			
	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計
部分的態度	—	10	13	23	—	—	1	1	—	7	11	18	—	3	1	4
表皮的態度	15	5	2	22	1	1	1	3	6	4	—	10	8	—	1	9
総合的態度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15	15	15	45	1	1	2	4	6	11	11	28	8	3	2	13

(二次)

読みの類型	能力区分				おもしろい				きらい				わからない			
	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計
部分的態度	—	8	10	18	—	—	—	—	—	5	6	11	—	3	4	7
表皮的態度	9	5	4	18	—	—	1	1	4	3	1	7	5	2	3	10
総合的態度	6	2	1	9	6	2	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15	15	15	45	6	2	2	10	3	8	7	18	5	5	7	17

(三次)

読みの類型	能力区分				おもしろい				きらい				わからない			
	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計	上	中	下	計
部分的態度	—	2	6	8	—	—	1	1	—	1	4	5	—	1	1	2
表皮的態度	9	4	8	26	2	1	2	5	4	6	4	14	3	2	2	7
総合的態度	6	9	1	11	6	4	1	11	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15	15	15	45	8	5	4	17	4	7	8	19	3	3	3	9

1. 結果の概観

第1のタイプを部分的態度、第2のタイプを表皮的態度、第3のタイプを総合的態度とした。

第1のタイプと第2の区別については、主題予想も含めて、主題に接近している者を第2のタイプとした。最終的な調査もしたが三次と比較考察するほどの相違はなかった。

(1) 一次の調査

○「わからない」の13名のうち上位が半数以上(8名)を占めている。

○上位の全員は文章の末尾を手がかりに主題に接近している。

○「おもしろい」のうち上位1名は二次で「わからない」に変化した。理由について聞いたがはっきりしない。

(2) 二次の調査から

○総合的態度への変化。(上位6名、中位2名、下位1名)

○「きらい」から「わからない」に変化したのが10名。

○一般に興味の推移は、「きらい」→「わからない」→「おもしろい」のような傾向がみられる。読みの類型との関係を示している。

○二次で「きらい」の18名は三次でも変化がない。

(3) 三次の調査から

○部分的態度の減少が大きい。しかし「きらい」の数が減少していないのは単に作品の概念を得たに過ぎないということである。このことは部分の読みの調査の結果からも明らかである。

○「わからない」と回答する者に表皮的な読みの態度が多いのであるが、三次の調査において、「おもしろい」に変容している者がある。内容理解の深化によるものであろう。

○三次の指導からは総合的態度に変容したものは少なかった。

○総合的態度への変容は最終的に11名である。

2. 部分の読みと興味との関係(二次における)

(1) 部分とその感想

「おっと」

口に出してそう言い、少年は手の甲をぐうっと上にそらし、均衡をとりもどそうとした。その動作は、平素の時よりもずっと誇張されたものだった。ピエロの格好をして、わざわざ危うい足どりで綱を渡って見せる芸人の姿が、少年の脳裏に浮かび上がった。

a 自意識の表現としてみているもの

○自分で自分をピエロのように思っているが、どうすることも出来ないやるせなさ。

○誰も見ていないのでわざと大げさにし、いままでの感情をふり払おうとしてみた。

b 審美的な態度

○恥じらいながらも真剣なのがとても美しい。 漫画のような味わいがある。

c 表皮的・部分的理解

- 自分とビエロが一致するように思った。 ○自分で自分をいじめている。

d 批判的

- 自分の姿を誇張し、空想している姿に反ばつを感じる。 ○大げさすぎる。

(2) 部分の読みと興味特殊

- 総合的な態度の者は文意に即して読んでいる。
○「わからない」と回答する者の大部分は、主題を把握しているが、部分の読みが文意に即していない者である。
○一次で部分的態度であった者は三次で作品の概念を得た後も部分的な態度である。

3. 具体例

(1) 変容しない例(S・A女子成績優秀)

- (一次) この少年の友人は意地悪な子だと思った。少年が極端にやせたり太ったりするのが奇妙である。作者の意図がつかめない。 (「わからない」)
(二次) 今まで読んだ本とは全く違ってなじみにくいと思った (「わからない」)
(三次) 筋が面白くない。単調だ。部分的にはおもしろい。人の心の様子もよく書けていると思う。 (「わからない」)

(2) 変容した例(N・A女子上位)

- (一次) 「少年は、内部から欠落し、そして新たに付け加わった形のわからないものを感じた」とあるがどんなことかわからない。 (二次感想、省略) (「わからない」)
(三次) 話しの厚みとかもりあがりがありながらも、水彩画のような一種の魅力のある作品だともう。成長の過程がオブラートのように半透明に書かれている。いい作品だと思った。 (「おもしろい」)

V まとめと反省

- 1 わずかな人数であったが、二次、三次の指導に活発に反応して読みの変容をみせるものがあり、その変容の様態をみることは興味深かった。
- 2 他の指導過程による調査と比較してみたが 学級差があまりにも大きいので比較資料になり得なかった。(興味を示す者は一学級中、最高25名、最低6名)
- 3 今年度の読書の冊数や文学の好き嫌いとの関係の調査をしたが、この作品の興味との関連は見出せなかった。個人の性格や学級のふんい気に密接な関係があるように思われた。
- 4 この指導過程を採用したのは、作品に対する感想があまりにも否定的・拒否的であったため作品世界の特質に一気に触れさせようとしたのである。作品の特質もまたそうした扱い方に適している面を持っていると思うため、どの作品にも適用しようとは考えていない。
- 5 形象世界が中心となる作品に対して、指導法による転移の比較・実験的な研究も、今後の興味ある問題と思われる。

参考文献 垣内松三「国語の力」 興水実「基本的指導過程」 サルトル「想像力の問題」